

## 血液透析患者で下肢切断を免れた閉塞性動脈硬化症の症例提示とフットケアの取り組み

渡辺内科クリニック○小林文世・柿沼敦子・斉藤浩次・山本登・渡辺幸康

症例は70歳男性、平成7年より前橋赤十字病院にて、RAのため加療。

平成9年9月、感染性胃腸炎・脱水後に腎不全に陥る。透析3日間で離脱するも

平成12年3月頃より腎機能悪化し、平成12年5月18日よりダブルルーメンカテーテル挿入し血液透析導入になる。

平成12年5月18日、左前腕内シャント造設術施行(前橋日赤 HP)。

平成12年8月、一人暮らしにて自立困難のため当院に転院入院となる。その後、左内シャント閉塞あり、再度左内シャント造設術施行後、維持血液透析にて経過は良好であった。

平成16年1月、原因不明の敗血症のため、CRP(41.60)↑WBC(23800)↑ゆえ抗生剤投与、これにて1月22日頃よりCRP↓WBC↓みられ、全身状態改善した。

平成17年5月下旬より左足背部に冷感および疼痛を訴えるようになる。5月31日よりスロンノン(10mg)2A入りDIV開始するが、6月上旬より左第一趾壊疽出現する。6月10日よりLDL吸着療法開始と同時に処置(ラップ療法)を開始した。LDL吸着療法10回施行中に、千葉大学循環器内科受診するが、末梢血単核細胞移植は現在の状態では効果が乏しいとの診断であった。受診時にABIと同時に行なったEKGにて第Ⅲ度房室ブロックを指摘、平成17年7月15日、高瀬クリニックにてペースメーカー植え込み術施行。同月9日よりスロンノンからパルクス(10μg)に変更。その後、壊疽に関してはイソジン消毒+ガーゼ保護にて経過観察とした。平成18年9月16日からASケア開始し、現在、壊疽部分も取れて改善傾向にある。

プロスタグランディン製剤とLDL吸着療法にフットケアとしてラップ療法を組み合わせ、下肢切断を免れた閉塞性動脈硬化症を経験したので報告する。